

集落営農リーダー情報交換会を開催

1 月 23 日、湖東管内集落営農組織の経営力向上を目的に、湖東地域農業センター主催の集落営農リーダー情報交換会が開催されました。

26 組織(内、法人 20 組織)64 名の役員と関係機関 28 名、合計 92 名の参加があり、集落営農組織の継続性について講演を聞いた後、3つの分科会(組織運営・麦大豆栽培・園芸複合化等)に分かれて意見交換を行いました。

全体研修会では、滋賀県農業会議の西堀事務局次長より「集落営農組織の継続性について」と題し、ほとんどの組織が課題と考える「組合員の参画誘導」や「作業計画と実践」等について、優良事例を交えて講演いただきました。

その後、①組織運営、②麦大豆栽培技術、③園芸作物の複合化、6次産業化の3分科会に分かれて、当課職員が座長を務めながら意見交換を行いました。

①では、「役員間の情報共有を図るため、毎週土曜日の朝に短時間の打合せを行っている。」や「女性の参画を誘導するために野菜栽培や加工部門を立ち上げた。」など、我が組織の取り組みを紹介してもらいました。一方、役員への事務労力の集中や出役調整の難しさなどは、どの組織にも共通する課題であることも意識共有できました。

②では、大豆の生産安定のためのキーとなる出芽・苗立ち確保について、技術サイドからの各組織の取り組み状況や工夫している点について意見交換を行いました。また、連作による地力低下など新たな課題について問題提起がありました。

③では、他地域での取組み事例や主要な園芸作物の収益性、労働時間を取りまとめた資料を提供し、それぞれの作目の特徴について理解を促しました。事例を紹介するなか、複数の集落で、米価が低迷する状況での新たな品目の導入や、経営に加工部門の導入を検討する意見が聞かれました。

各分科会とも時間が足りないほど活発な意見交換が行われ、このような機会を望む声が多く出されたことから、今後も関係機関が連携して場面設定していく予定です。



全体研修会の様子



分科会(組織運営)の様子